

第320回山口西田読書会（2023年1月14日開催分）の Protokol

行武要記

1. テキスト：「場所」「四」の第2段落258頁8行目から同段落259頁9行目まで
2. キーワードないしキーセンテンスと考察ないし問い

「知覚は思惟の上に重り合ふのである」（259, 3）

一般の中に特殊を、特殊の中に一般を包摂する方向性が、知識あるいは意志であり、二つの方向性の統一は直覚である。また、現象学のいう〈知覚の充実〉における、基礎付ける作用と基礎付けられる作用は共に、直覚即ち無の場所に於いてあるのであり、〈知覚作用〉は、既に「範疇的直覚」（思惟）を含んでいる。

通常、知覚と思惟は時系列性を有すると考えるが、「知覚は思惟の上に重り合ふ」については、どのように解釈したらよいのだろうか。